

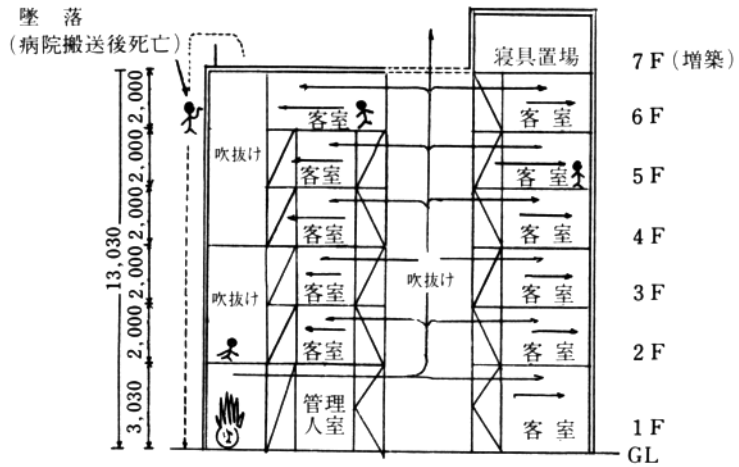
名 称 所 在	用 途 (令別表)	発 生 日 時 等	構造・階層 面 積	焼損程度 (焼損面積 延面積)	死 傷 者
千成ホテル 大阪市西成区 萩之茶屋1～8～20	簡 易 宿 泊 所 (5)イ	昭和50年3月10日	簡耐 ⅔	㊤・半・部・小	死者 4名
		出火6時16分ころ 覚知6時20分 覚知別火災報知専用電話 鎮火12時58分	建 251m ² 延 1,501m ²	1,501m ² (100%)	傷者 61名 ()

I 火災概要								
① 概 要	愛隣地区内の簡易宿泊所で未明に発生した火災で、出火場所が1階玄関横の客室であったため、当日の宿泊者約180名は逃げ場を失い、窓から飛び降りる者や屋上へ避難する者など、相当のパニックに陥り、4名の死者と61名の傷者が発生することとなったが、この火災は、簡易宿泊所のもつ防災上の危険性や警防活動について多くの教訓を与えてくれた事例である。							
② 階 別 状 況	階	床面積 m ²	焼損床面積 m ²	用途(売場)	在館者	死 者	避難設備等	消防用設備等
	7	64.0	64.0	ふとん部屋		1 (屋上から転落死)	屋内階段 (1F～屋上) 1箇所	③ ④ 各階1箇所
	6	239.5	239.5	客 室	16	1	(1F～6F) 1箇所	⑤ ⑥ 放送
	5	"	"	"	19	1	タラップ (1F～6F)	⑦ ⑧ ⑨
	4	"	"	"	40		2箇所	⑩ ⑪ 3F～7F
	3	"	"	"	42			
	2	"	"	客 室	40	1		
	①	239.0	239.5	管理人室, 客室	28			
	合計	1,501.0	1,501.0		185	4		
③ 出 火 場 所	(階, 室, 部位, 可燃物状況, 居室・非居室, 在・不在) 1階玄関横の客室から出火 客室のほとんどは、2m ² 位で、合板の間仕切り、及びドアで仕切られていた。また各室は狭いうえ寝具等可燃物が多く、窓は無断侵入や寝具等の持ち出しの防止、投石によるガラス窓の破損を防ぐため金網で覆われていた。				④ 出 火 原 因	不 明 たばこの不始末、電気ストーブの消し忘れ、放火等が考えられるものの、ともに立証資料に乏しく断定するに至っていない。		

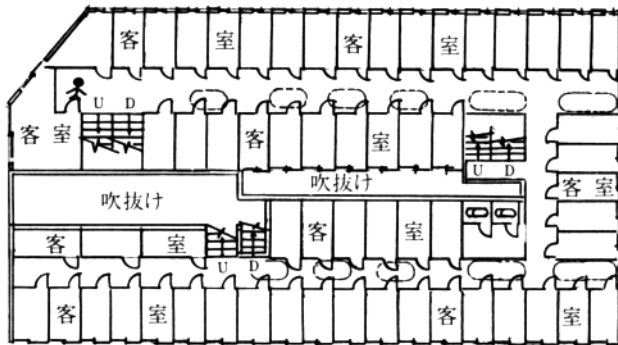
⑤ 火 災 の 延 焼 経 路 等	<div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> <div style="text-align: center;">(出火部位) 1階玄関横の 客 室</div> <div style="text-align: center;">(出火室の拡大) 内 装 収容可燃物</div> <div style="text-align: center;">(他室への拡大) 合板間仕切</div> <div style="text-align: center;">(上階への拡大) 防火区画のない階段 廊下の吹き抜け部分</div> </div>			
	<p>出火場所が1階玄関横にある階段に近い客室であったため、客室内で延焼拡大した火は、短時間に防火区画のない階段を上昇して拡大するとともに、偶数階廊下の吹き抜け部分を通じて急速に上層階へ延焼拡大するところとなり、更に合板製の間仕切りはこの延焼速度を助長する結果となった。</p>			
<ul style="list-style-type: none"> ○ 延焼拡大した主な理由 <ul style="list-style-type: none"> ○ 防火区画のない階段に近い客室から出火したため火が一举に上階へ延焼拡大した。 ○ 防火区画がないうえ吹き抜けがあったり間仕切りが合板性であったため延焼拡大を早めた。 ○ 煙の伝播経路 <ul style="list-style-type: none"> ○ 防火区画されていない階段。 ○ 廊下の吹き抜け部分。 				
II 火災建物概要				
① 建 築	着工・竣工又は主たる改築等 () 昭和 年 月 日 () 昭和 年 月 日			
管 理 状 況	② 縦 穴 の 状 況		③ 防 火 管 理 状 況	
	階 段 <input checked="" type="checkbox"/> ダクトスペース <input type="checkbox"/> エレベーター <input type="checkbox"/> パイプシャフト <input type="checkbox"/> エスカレータ <input type="checkbox"/> その他(吹き抜け) <input checked="" type="checkbox"/>		防災意識については、経営者、防火管理者も低く、従業員等に対する防災教育も行われていなかった。	
階段は直通階段が東西に1箇所ずつ設けられていたが、防火区画されていない。				
管 理 状 況	④ 防 火 区 画 等		⑤ 消 防 用 設 備 等	
	この建物は、3階建の各階を2層にわけて床を設けて6階としていたもので、奇数階の床は鉄板(デッキプレート)張りであるが、偶数階の床は鉄骨の板張りで、廊下には約0.5m×1.3m程度の吹き抜け穴が7～10箇所設けられており、防火区画はされていない。		自動火災報知設備の音響装置のスイッチが「断」の状態となっていたため鳴動していない。	

III 火災後の行動						
① 発 見 状 況	<p>○発見者 (1階の宿泊客)</p> <p>○発見の動機 (煙がドアから漏れているのを見て)</p> <p>○発見後の行動 (火事だと騒ぐ)</p> <hr/> <p>自分の部屋を出て廊下を歩いていると、玄関横の部屋のドアから煙が出ていたので変だと思い、ドアを開けてみると、部屋の内は火煙につつまれていた。大変だと思い「火事だ!」「火事だ!」と叫んだ。</p>					
② 通 報 状 況	<p>通 報 した <input type="checkbox"/> () 出火後約(4)分</p> <p>しない <input checked="" type="checkbox"/> (近隣者)</p> <hr/> <p>千成ホテル斜め向かいのM食堂から「うちの向かいの千成が火事です」と通報している。</p>					
③ 初 期 消 火 状 況	<table border="1" style="width: 100%;"> <tr> <td style="width: 15%; text-align: center;">消 火 し た</td> <td style="width: 35%;"> 成功 <input type="checkbox"/> 失敗 <input type="checkbox"/> ○消火時期 <input type="checkbox"/> ○消火困難性 <input type="checkbox"/> ○消火方法 <input type="checkbox"/> </td> <td rowspan="2" style="width: 50%; vertical-align: top;"> (理由又は状況) 初期消火は行っていない。 (設置されている消防用設備等についても使用された形跡は無い。) </td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">消 火 し ない</td> <td> ○消火時期 <input type="checkbox"/> ○消火困難性 <input type="checkbox"/> ○消火方法 <input type="checkbox"/> ○その他 <input type="checkbox"/> </td> </tr> </table>	消 火 し た	成功 <input type="checkbox"/> 失敗 <input type="checkbox"/> ○消火時期 <input type="checkbox"/> ○消火困難性 <input type="checkbox"/> ○消火方法 <input type="checkbox"/>	(理由又は状況) 初期消火は行っていない。 (設置されている消防用設備等についても使用された形跡は無い。)	消 火 し ない	○消火時期 <input type="checkbox"/> ○消火困難性 <input type="checkbox"/> ○消火方法 <input type="checkbox"/> ○その他 <input type="checkbox"/>
消 火 し た	成功 <input type="checkbox"/> 失敗 <input type="checkbox"/> ○消火時期 <input type="checkbox"/> ○消火困難性 <input type="checkbox"/> ○消火方法 <input type="checkbox"/>	(理由又は状況) 初期消火は行っていない。 (設置されている消防用設備等についても使用された形跡は無い。)				
消 火 し ない	○消火時期 <input type="checkbox"/> ○消火困難性 <input type="checkbox"/> ○消火方法 <input type="checkbox"/> ○その他 <input type="checkbox"/>					
④ 消 火 活 動 概 要	<p>(消防上の支障・困難性等)</p> <p>○到着時3～4階の開口部から火炎が噴出し、黒煙は全館から出ていた、屋上に20～30人位の避難者がおり救助を求めている。</p> <p>○火災防ぎょ活動は、救助活動の援護放水を重点的に行った。</p> <p>○宿泊者の無断進入、寝具等の無断持ち出し等を防止する為、窓の開口部には全て金網が張られていたため、消防隊の進入を妨げた。</p> <p>○建物は中央部が換気ため吹き抜けになっているうえ、合板間仕切りによる柵式小部屋に区切られ、内部には寝具類等可燃物が多量にあったため消火は困難であった。</p>					

	避 難 方 法	避 難 上 支 障 事 項														
⑤ 避 難 状 況	<ul style="list-style-type: none"> ○階段を利用 <input checked="" type="checkbox"/> (人) ○エレベーター、エスカレータ利用 <input type="checkbox"/> (人) ○避難器具を利用 <input type="checkbox"/> (人) ○窓、開口部から直接地上へ <input checked="" type="checkbox"/> (人) ○救助 <input checked="" type="checkbox"/> (33人) ○その他() <input type="checkbox"/> (人) 	<ul style="list-style-type: none"> ○無 窓 <input type="checkbox"/> ○開口部の格子等 <input type="checkbox"/> ○非常口(出入口)等の施錠 <input type="checkbox"/> ○警報設備 <input type="checkbox"/> (管理不良, 機能不良, 未設置) ○停 電 <input type="checkbox"/> ○その他 <input type="checkbox"/> 														
	<p>宿泊者の大部分は、玄関横の階段や廊下吹き抜け部分から吹き上げる火煙に追われ、東側便所横にある階段、トラップ等から1階へ避難し、玄関等を通して屋外に脱出している。しかし幅員の狭い階段から短時間に全員が避難することは不可能で、階段を利用できない者や火災に気付くのが遅れた者は窓からの飛び降り、隣家への避難、電柱建物の外壁を利用した降下、屋上への避難等あらゆる方法を用いて脱出を試みており、相当のパニック状態にあったことがうかがわれる。消防隊により梯子車で屋上から25名を救助した他、各隊で合計33名救助している。</p>															
⑥ 死 者 の 状 況	<table border="0"> <tr> <td>健康人</td> <td>3名</td> </tr> <tr> <td>(泥酔者)</td> <td>名)</td> </tr> <tr> <td>要保護者</td> <td>1名</td> </tr> <tr> <td>乳幼児</td> <td>名)</td> </tr> <tr> <td>高齢者</td> <td>1名</td> </tr> <tr> <td>身体不 自由者</td> <td>名</td> </tr> <tr> <td>病人</td> <td>名)</td> </tr> </table>	健康人	3名	(泥酔者)	名)	要保護者	1名	乳幼児	名)	高齢者	1名	身体不 自由者	名	病人	名)	<p>避難上支障となった事項</p> <ul style="list-style-type: none"> ○無 窓 <input type="checkbox"/> ○開口部の格子等 <input type="checkbox"/> ○非常口(出入口)等の施錠 <input type="checkbox"/> ○警報設備 <input type="checkbox"/> (管理不良, 機能不良, 未設置) ○停 電 <input type="checkbox"/> ○その他 <input type="checkbox"/>
健康人	3名															
(泥酔者)	名)															
要保護者	1名															
乳幼児	名)															
高齢者	1名															
身体不 自由者	名															
病人	名)															
	<p>○死亡した4名のうち3名は焼死であった。いずれも避難時機を失し、室内で、あるいは廊下で濃煙にまかれ意識を失い倒れ焼死したと思われる。 発見場所は、2階の客室で1名(85才位)と6階の客室で1名(25才)、それに5階フロア窓際で1名(年齢不明)が見つかった。</p> <p>○屋上から転落した1名(52才)は、避難時機を失し、屋上へ退避したが、屋上から電柱に飛び移って避難しようとして転落し病院搬送後死亡したものである。</p>															
<h4>IV 問題点・教訓等</h4>																
<ol style="list-style-type: none"> 1. 宿泊客の安全確保は経営者の義務であり、防火管理者の選任は形式的なものでなく防火管理業務を誠実に遂行しなければならない責任を有することを認識させるとともに関係者全員が安全確保について自覚と責任を持つよう徹底しなければならない。 2. 各階及び階段室の防火区画が不十分なところから、延焼及び煙の充満が急速に進展し、多数の死傷者をもたらしたもので防火区画の点検と不備欠陥部分の是正を早急に行う等の措置が必要である。 3. 宿泊者の無断侵入や盗難防止等のため窓には金網がはられ、出入口は施錠されているのが実状であり、避難及び消防隊の進入の妨げとなるので改善できる措置を講じさせなければならない。 4. 宿泊客の早朝安全を図るため非常口の確保はもちろんのこと、階段室の防火区画を完全にし、上階からの避難を容易にするとともに、できるだけ屋外階段や隣接建物との避難橋を設置させる等積極的な人命安全対策を講じさせなければならない。 5. 設置されている消防用設備等を十分活用できるように訓練を実施するとともに従業員に対して防災教育をして徹底させる必要がある。 																

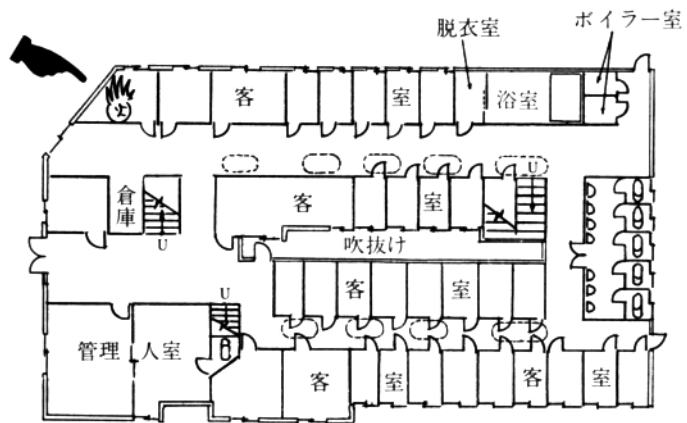


- ⑤ 奇数階の床は鉄板張り(デッキプレート)
廊下には約0.5m×1.3m程度の吹き抜け穴が7~10カ所設けられていた。(偶数階)
2, 5, 6階の死者の位置は推定である。



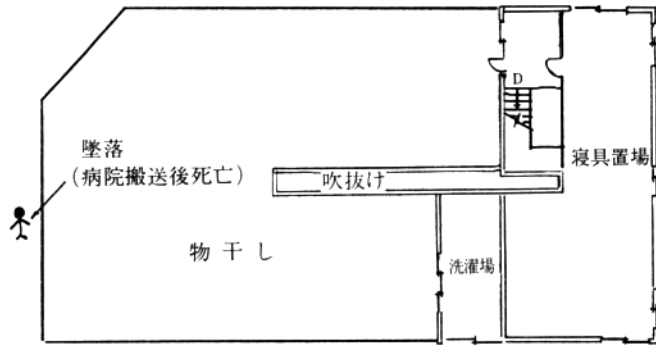
2 階

○ 吹き抜け位置

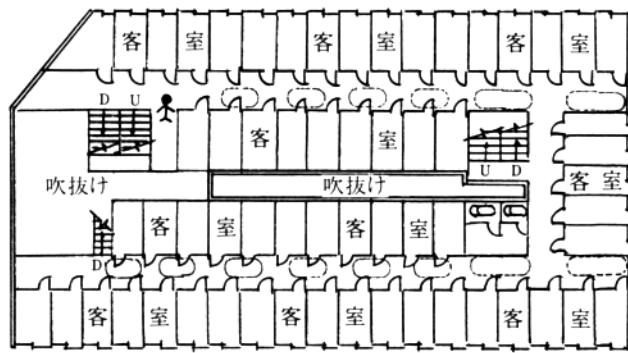


1 階

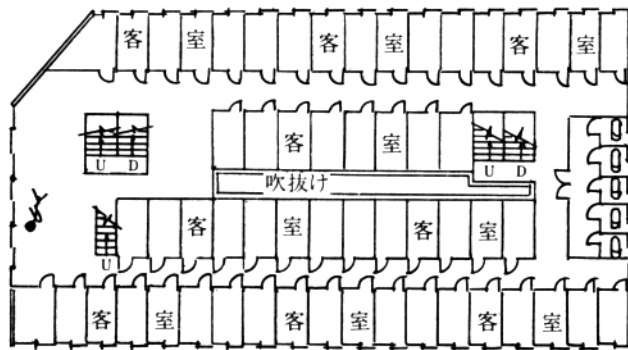
○ 吹き抜け箇所を示す。



7 階



○ 吹抜け 6 階



5 階